

事例報告

雑司が谷を中心とした学習活動

中村 雅子

南池袋小学校校長の中村と申します。これから子どもたちの学習活動の紹介をさせていただきますが、その学習活動が成り立っているのも、すべては地域の方々のご支援のおかげです。はじめに感謝を申し上げます。

南池袋小学校（以下、みないけ小）は、豊島区のちょうど中心、羽を広げたフクロウの腹部に当たる場所にあります。なかなか学校の場所がわかりづらいようで「南池袋小学校はどこにあるんですか？」とよく聞かれます。そこで、雑司が谷の新しい地図の中に、大きく本校の校章とともに、みないけ小を位置づけていただきました。かわいいミミズクのマークが本校の校章で、地域の方々の願いがこの校章にもよく表れていると思います。

小学校の校歌は、その学校の名前を歌って終わる歌詞が多いのですが、みないけ小の校歌は「世界に平和と自由の虹をかけよう」という歌詞で終わります。校歌は地域の方々がつくってくださったものですが、ここにも本校ができたときの、地域の方々の願いが込められています。子どもたちは校歌が大好きで、よく歌っています。

今日は、みないけ小の子どもたちが、どのように雑司が谷と関わり、どのような学習活動をしているのか、お話しします。子どもたちは雑司が谷が大好きで、とても生き生きしています。私は、水や空気と同じように、文化は子どもたちの心を育む上で欠かせないものだとして日々実感しております。雑司が谷の伝統文化や自然環境は人づくりの基盤であり、大いに教育活動に取り組むべきだと考えております。先ほど、渡邊会長からヒガンバナの群生を、というお話を伺い、国語で『ごんぎつね』を扱う際、もしヒガンバナが咲いていたら子どもたちを連れて行こうと思いました。

みないけ小の子どもたちは、法明寺の境内で、雑司が谷の大切な行事である御会式ゆかりの纏（まとい）を振らせていただきました。日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産」の審査を受けたときです。今日は、子どもたちが纏を披露しますので、ご覧いただきたいと思っております。

【実演】

いま纏を振ってくれた子どもたちの中には、今日から家族旅行に出かける予定だった子もいます。ですが、「交渉して日にちを変えてもらって、ここに来たよ」と言ってくれた子もおりました。とても頼もしく、素敵なことだと思います。

子どもたちの活動は、学校内にとどまらず、他の場所の子どもたちと交流しながら、発

展していくものだと思います。昨年は先ほどの纏を担いで、役所前を通り、電車に乗って豊島区立千早小学校に伺い、纏の紹介をしました。千早小学校も地域の文化の紹介をしてくださいました。

先週は、林間学校で長野県の立科小学校にお邪魔をしました。体育館を借りて、立科小学校の子どもたちから地元の文化について話を聞きました。そして、みないけ小の子どもたちは、纏を披露しながら、鬼子母神堂や法明寺の話を、子どもたちなりの言葉で伝えました。子どもたちは、雑司が谷の方々につくっていただいた纏を持って、お借りした半纏を着て、力強く纏を振って見せてくれました。このように、自分たちの文化を大切にすることで、他の地域の文化を尊重する態度も育つのだと思います。

今日は「つながる」というテーマで話していますが、今度は「社会とつながる」ことに関して紹介させていただきます。子どもたちは、江戸提灯を伝承した雑司が谷の方々の指導のもと、提灯に江戸文字や絵を描きました。こうした活動は、地元の方々、そして育成委員会の方々をはじめ、すべての地域の方々のおかげで実現した、学校の教育課程外の活動です。この江戸提灯の一つを終業式の日法務省に届けました。世の中を明るく照らす提灯です。借り物ではない、自分たちの文化を通して社会をよくする、そういう価値ある学びだと思います。雑司が谷の豊かな文化が豊かな子どもたちを育み、豊かな心を持った子どもたちが、やがて豊かな地域や国をつくってくれると信じています。

昨年は「未来遺産」登録から1周年でしたし、東京都指定天然記念物にケヤキ並木が指定されたので、それを祝して植樹祭が行われました。これから、そこに参加した南池袋小学校代表委員長の大内響君に登壇してもらい、そのときに読みあげた作文をお聞かせしたいと思います。

ユネスコ未来遺産の登録一周年、本当におめでとうございます。

ぼくは雑司が谷で生まれ、雑司が谷で育ちました。この地域に鳴り響く太鼓の音や、力強い掛け声が、僕に祭の始まりを知らせてくれます。そんなお祭りの時にはにぎわいを感じ、普段は静かで心地よさを感じる、このけやき並木が、僕は大好きです。けやき並木の植樹式に参加させていただけたこと、本当に嬉しく思います。

南池袋小学校に入ってからはこの雑司が谷の伝統や文化を学んできました。三年生の時には、大鳥神社のお祭りについて学び、おはやしに興味をもって調べる学習をしました。四年生の時にはすすきみみずくを作る体験もしました。おはやしの時には地域の方々が、また、すすきみみずく作りの時には、保存会の方々が、どちらも優しく丁寧に教えてくださいました。そこから感じたことは、みなさんの地域の伝統や文化を受け継いで欲しいと願う気持ちです。ぼくはその気持ちを大切にしていきたいと思いました。

河地さん達、六年生は日本の伝統や文化を外国の人に伝えるという学習に取り組ん

でいます。来年、僕は南池袋小学校の最高学年になります。河地さん達と同じように、自分達が学んだことを外国の方に伝えていきたいです。そのために、今よりもっと英語について学習したいと思います。

ぼくのお父さんが経営している池袋の和菓子屋には、外国のお客さんもたくさん来ます。将来、この和菓子屋を受け継ぎ、この雑司が谷地域に住みつづけ、外国の方にも雑司が谷の伝統や文化の素晴らしさを知ってもらいたいと考えています。

平成二十七年十二月十三日
南池袋小学校 五年 大内 響

大内君、それから、みないけ小の子どもたち、本当にありがとうございました。未来遺産に関して、本校では昨年、雑司が谷にある文化や自然を未来に残したいという思いを伝える駅前キャンペーンを6年生が行いました。

5年生は蛍を呼び戻すプロジェクトを担当します。昔は雑司が谷に蛍がいたと言われますので、毎年5年生が学校の中の小さな池に水路をつくって、蛍が集まる環境を整備します。

続いて、1年生から順に、みないけ小における雑司が谷の学習を紹介します。

1年生の生活科で「大すき ぞうしがや」という学習があります。子どもたちが実際に散歩をして見てきたものを絵や言葉にして学校に持ち帰り、お互いに伝え合う学習です。

2年生は「しょうかいします 雑司が谷七福神」に取り組みます。先ほど渡邊会長から七福神のお話がありましたが、この七福神を実際に回りながら、お話を聞いて、それをもとに子どもたち同士で発表し合う学習をしています。

3年生では「みないけ お祭りたんけん隊」として、宮司にインタビューしたり、お祭りの支度の様子を見学したりして、学びを深めます。そして調べたことを地域の方や外国の方に発表します。発表するというゴールを示すことで、子どもたちは「もっとよく見てこよう、もっとよく調べてこよう、どうやって工夫して発表したら伝わるかな？」と考えるようになります。この後の学習にも同じような側面があります。自分たちで調べて、それを誰かに伝え、発信することの大切さを気づかせます。

4年生は、すすきみみずくをつくる学習を行います。紙芝居など、保存会の方々にいろいろな質問をさせていただき事前学習を十分にした上で制作に入ります。私の手元には保存会の方々への質問の答えということで、100項目ぐらいのQ&Aがありますが、二つだけ紹介させてください。

たいへん子どもらしい質問だと私は思うのですが、すすきみみずくの由来を伝える物語の中では、すすきみみずくを初めにつくったのは、おくめちゃんという、今でいえば3年生ぐらいの女の子です。それを受けて「おくめちゃんの次にすすきみみずくをつくったの

は誰ですか」という質問がありました。保存会の方々は、こうお答えになっています。「心の優しいおくめちゃんですから、きっといろいろな人に教えてあげたのだと思います」。このように、子どもたちの素朴な質問にもお答えいただき、本当にありがたいかぎりです。

最後に、こんな質問を子どもたちがしました。「困っていること、協力してほしいことがありますか」。これに対して保存会の方々は「すすきみみずくのことを忘れずに、大人になったらみんなの子どもたちに教えてあげてください」と、心を込めて答えていただきました。そうしたインタビューなどを経て、子どもたちはすすきみみずくをつくりました。そして子どもたちは、外国人の小学生に英語で一生懸命に伝えました。子どもたちの感想から一つだけご紹介します。

私は、今日、外国の子どもたちと交流して感じたことを二つ書きます。一つ目は、すすきみみずくのことを英語で話せたうれしさです。英語で伝わり、感動しました。二つ目は、わかってもらえてうれしかったことです。自分たちのこと、自分たちの地域のことをわかってもらえることが本当にうれしかったです。もっともっと頑張ろうと思いました。

5、6年生は、富士山や、茶道、和紙づくりなど、日本の伝統文化について学びます。これらをしっかり学べるのも、地域の伝統文化の学びがあるからこそだと思います。地域の方々のご協力をいただきながら、子どもたちは、着物の文様や浮世絵が世界につながっていったことを学び、外国の大学生・留学生に日本の伝統文化のよさを英語で伝えます。

こうした学習を、今の忙しい学校で行う時間はあるのかという疑問もあるでしょう。しかし、国語、算数と、いずれの教科にも地元の文化と結びつけて学べる余裕は、いくらでもあります。みないけ小はこのように、各学年に「雑司が谷」を学べる要素を組み入れることで、子どもたちに実感できる学びをしてほしいと考えております。

(なかむら・まさこ 南池袋小学校校長)